

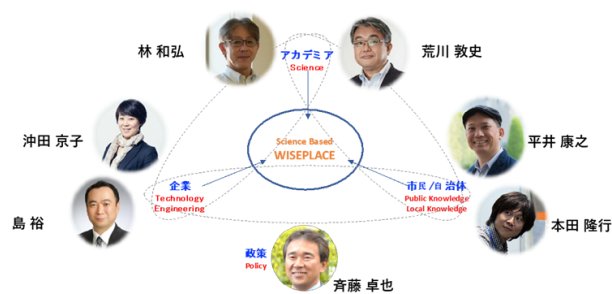
FCAJ「構想の場」でのFCAJとJSTのコラボ企画 「サイエンスコミュニケーション×デザインラボ」イベントの実施について（結果報告）

（取り組みの背景）

- ✓ FCAJ（一般社団法人 FutureCenterAllianceJapan）の持つオープンイノベーションの方法論や場のデザインの知見を、科学技術振興機構（JST）「科学と社会」推進部が持つ科学コミュニケーションの知見に結びつけ、科学のナレッジを活用したイノベーションの場の設計について考えるイベントを企画することとなった。

（取り組みの概要）

- イベントタイトル：
構想の場 サイエンスコミュニケーション×デザインラボ
「社会がサイエンスのナレッジを活用するイノベーションの場をいかにデザインするか？」
- アカデミア、企業、市民/自治体が、互いに知見を持ち寄り、理解を深め、科学技術リテラシーの向上や、人間社会の総合的理解を通じて、イノベーションの創出、社会課題解決への貢献を図るための場のあり方を考える。



■ プログラム構成

1. アカデミアの視点から講演
「科学コミュニケーションに関して、これまでの変遷、現在の取り組み、課題、課題解決の方向性を示す」
－荒川 敦史（JST）、林 和弘（NISTEP）
2. 企業の視点から講演
「企業がサイエンス資産をイノベーションに活用するには？」－島 裕（FCAJ）、村田 博信（FCAJ）
「サイエンスを社会善にエンジニアリングする上での倫理観や価値観を養う対話の場とは？」
－沖田 京子（日立製作所）
3. 市民/自治体の視点から講演
「ソサイエタルデザインを通じて市民/行政を巻き込み社会課題を解決するには？」
－平井 康之（九州大学大学院教授）
「市民/行政と科学・技術をつなぐコミュニケーションとはどのようなものか？」
－本田 隆行（科学コミュニケーター）
4. パネルディスカッション
「科学と社会をつなぐ場やそれを浸透させるための政策とは？」－斉藤 卓也（理化学研究所）
「社会がサイエンスのナレッジを活用する場をいかにデザインするか？」（登壇者全員）

■ 開催結果

イベント参加者（参加団体数26、参加人数46）は、各セクターの背景や価値観を共有すること、ゆとりや対話を通じた信頼関係を構築すること、自分事として行動を変革すること、このような議論を社会実装することなどの重要性について気づきを得た。

※詳細はこちらを参照：

<https://futurecenteralliance-japan.org/recent-activity/zx8ne5ajb2gbbbawmwjhntg256wz5w>